

バイオバンク設置の目的

- 令和4年4月、愛媛大学医学部附属病院の取組として、基礎と臨床の橋渡し研究を推進するため、先端医療創生センター（TRC）にバイオバンク部門を設置しました。
- 本バイオバンク部門は、単なるサンプル・臨床情報の収集・保管を目的としていません。医療情報部で開発された、カルテ内の臨床情報を簡便にデータベース化できるシステムを用いて、多忙な医師が、臨床研究を効率的に推進できる環境を提供します。これにより各講座で保有している様々な臨床サンプルの解析結果（遺伝子・タンパク・代謝物等）と臨床情報の統合データベース化が容易に行えるようサポートします。また、学部内のデータの共用を推進するため、データベースの標準化を行います。
- 更に、各講座から提供いただいた統合データベースを、TRCバイオバンク部門で集約し、医学部バイオデータバンクとして、学部内で共用できる環境を整備します。このデータバンクを用いた講座の枠を超えた研究、基礎・臨床の融合研究等により医学部全体の論文の質・量を上げ、競争的資金等の研究費獲得、外部評価の向上に繋げることを目的とします。
- 本バイオバンク部門は、医療情報部、重信地区技術部、ADRES（医科学研究支援部門）及び公衆衛生学環等とのネットワークを作るハブとしての役割も担い、基礎と臨床の橋渡し研究を推進します。また、他部局や学外研究施設との連携を目指します。

TRC(バイオバンク部門)

TRCバイオバンク部門は学部内ネットワークのハブとして基礎と臨床の橋渡し研究を推進

